

引用書目から見る中世末から近世初期にかけての学問体系

入口 敦志

《一》引用書目一覽稿について

「引用書目一覽稿」とは、近世初期を中心に、各書に引用された典籍の書名を集めたものである。その目的は、中世末から近世初期にかけての学問体系を、どういう本を使つて書物を作つていくか、ということから探つてみることにある。データは現在形成中であるが、中間報告としてここに掲出する。

なお、この作業自体は平成十四年度と十五年度の科学研究費補助金、基盤研究(C)(2)「中・近世日本文学の基礎的知識体系に関する研究」(研究代表者・入口敦志)の調査の一環として作成したものであることをあらかじめ断つておきたい。

その中の一部分から、典型的なものとして付表に示した『新編鎌倉志』(貞享二年刊行)をとりあげてみよう。

これはその後、延宝三年に徳川光圀が鎌倉を訪問したときの日記『鎌倉日記』というものがあつて、実はこの『鎌倉日記』が『新編鎌倉志』の元本になっている。それを見ると、延宝三年から貞享二年の間に編集する段階で、どれほどたくさん書籍が参照されたかが非常によく分かる。

もともとの『鎌倉日記』の方にはそれほどたくさん書目はあがつていないのだが、『新編鎌倉志』の方になると引用書目の量が約三倍くらいに膨れあがつている。こうした点に着目すると、相当量の収集をしてそれを使ったことが非

常によく分かるだろう。

これらの書名は、注を施すために使つた書籍の一覽で、それらが明示されていることは、要するに手の内を明かしてくれているものといえる。

こうした書名に注目すると、例えば『伽婢子』^{おとぎぼうし}について注を付すときに、こういうものが有効であるということがわかる。必ずしも『伽婢子』の本当の引用書目というわけではないのだが、それに関わる注を施すときに、こういうものを見るんだという、これは今でいうと、ある種の引用書目一覽ということになるだろう。

これは非常に詳細なもので、現代においても、こういうものを作つておくと、なるほどその時代の注を施すときにはこういうものを見るんだというのが非常によく分かる。「引用書目一覽稿」は、そのための指標となることをめざしている。

《二》中世末から近世初期にかけての学問体系―『清水物語』と『身の鏡』から―

引用書目をながめてみると、基本的に四書五経、源氏、伊勢あたりがやはり多い。これは予想されたことではあるが、書名として実際に出てくるものも、それが非常に多い。

中でも書物の学問における意義についての言及のある『清水物語』と『身の鏡』の引用文や、序は注目されるので、その一文を採りあげてみよう。

文章のよきを好む人は、三史文選などを見るべし。道を知らんと願はゞ、四書五経を学ぶべし。和歌の言葉つゞきを既ばむ人は、源氏物語の類を読むべし。引き事のおもしろきには、昔よりこのかた記し置きたる和国草紙に諸子百家の事、仏経など引き合はせたる多し。今此物語は、一つの心ざす所ありと見るべし。心ざす所の他は、いづれも古の草紙には劣れるなるらん。

と、序で宣言されることには、常套的な献辞も含まれるのだが、最初の二行のところは、やはり他の仮名草子類にも多く引用される所である。

草子であるため、あくまで慰みのものであるものが多いのだが、その中に出てくるものと、ここに出てくるものがだいたい共通している。これは、近世初期の学問のベースになっていることが非常によく分かる文章であるといえよう。そして、そのことが、引用されている書目を草子類で見みると、その通りであるということがおおむね諒解されるのである。

その後は、要するに本による勉強はあまり意味がないということを書いていく。ただ、これについては考えないといけなことがいくつもある。たとえば、引用書目に明示される書名の中には、明示はされていないが、例えば当時の公家の日記であるとか、あるいは神社の社家の記録とか、講演とか講義の形で出た引用の中で現れる書名の多いこともそのひとつである。

そのため、今日何々の本を読んだと言つて出てくる書名というのは中世末近世の記録類には非常に少なく、むしろそういう講義を聴いた、そういう講演を聴きに行った、ということから、非常にたくさん書名が書かれる結果になっているのである。

自分で本を読んだというよりも基本的には師匠の説を聴きに行く。そういうことが非常に多く行われていたということと、この『清水物語』の言う、本を読むということが勉強にはならないという、それだけではだめだということと

は、実は非常に深く関わっているのである。

学問とは何かということが、『清水物語』には直接書かれているけれども、それを傍証するためには、それとは別の伝達形態があったのではないかと、これも、考えあわせなければならぬだろう。

また一つには、出版文化の盛り上がり、本を読むということが非常に強く絡まっているのではないかと、このことが挙げられよう。特に浅井了意のもの等に顕著な傾向だが、博引考証的に非常に多くのものから引くことによつて、自分の説を補強するという著述態度が見られるようになってきている。そういうことは、どういふものを使つてやつていたのか、ということを知る必要がある。浅井了意自身の行つていた、さまざまな講演活動と書物との関わりが、このようにところから、どのように見えてくるのか、これは今後の課題である。

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
	をよそ源氏に見えけるは、	源氏物語		恨の介
	さても苦しきを、つらつら書き参らせんならば、その釈尊の古、御法を説きし事どもや、華嚴・阿含・方等經、法華・涅槃一切の經の、億々の文字の数とても、物の数ならぬ。	華嚴經		恨の介
	さても苦しきを、つらつら書き参らせんならば、その釈尊の古、御法を説きし事どもや、華嚴・阿含・方等經、法華・涅槃一切の經の、億々の文字の数とても、物の数ならぬ。	阿含經		恨の介
	さても苦しきを、つらつら書き参らせんならば、その釈尊の古、御法を説きし事どもや、華嚴・阿含・方等經、法華・涅槃一切の經の、億々の文字の数とても、物の数ならぬ。	方等經		恨の介
	さても苦しきを、つらつら書き参らせんならば、その釈尊の古、御法を説きし事どもや、華嚴・阿含・方等經、法華・涅槃一切の經の、億々の文字の数とても、物の数ならぬ。	法華經		恨の介
	さても苦しきを、つらつら書き参らせんならば、その釈尊の古、御法を説きし事どもや、華嚴・阿含・方等經、法華・涅槃一切の經の、億々の文字の数とても、物の数ならぬ。	涅槃經		恨の介
	さて月の最中といふ事は、「水の面に照る月並を数ふれば今宵ぞ秋の最中なりける」と云朗詠の、歌に見えしは、八月十五夜の事と覚えたり。	和漢朗詠集		恨の介
	その上過去因果經をおもみるに、己々のその業は、皆これ前生よりの定まりなれば、それ苦しからずと言ふ。	過去因果經		恨の介
	誠にや源氏物語にも伝へたり。柏木の衛門が女三宮の御立姿を、玉簾の隙よりもたゞ一目見参らせ、其面影を忘れかね、長き思ひと成たるも、かくやと思ひ知られつゝ、	源氏物語		竹齋
	さて囃の大事には、関寺小町、乱拍子、猩々の乱なり。	関寺小町		竹齋
	さて囃の大事には、関寺小町、乱拍子、猩々の乱なり。	猩々		竹齋
	六条少進出合ひて、例の御好きの善知鳥をば、一番こそは舞はれける。	善知鳥		竹齋
	法華經の提婆品に、一者不得作梵天王、二者帝釈、三者魔王、四者轉輪聖王、五者仏心と説かれたり。	法華經		竹齋
	されば法華經の文に、外面似菩薩、内心如夜叉と説かれたり。	法華經		竹齋
	伊勢物語に、葎生ひて荒れたる宿のうれたきはかりにも鬼のすだくなりけり、と詠みしも、女を鬼と詠みける歌なりとかや。	伊勢物語		竹齋
	法華經とやらんに、三界流轉中、恩愛不能断、因其心恋慕と説かれたりとかや。	法華經		竹齋

和暦	記事	項目	備考	出典
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	源氏物語		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	万葉集		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	伊勢物語		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	古今和歌集		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	論語		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	四書		竹斎
	さて或方を見てあれば、若衆たちの集りて、源氏・万葉・伊勢物語、古今・論語に四書・五経の、難字不審を改めて、遊ばせ給ふその中に、一条殿か二条殿の、御公達とうち見えて、少人一人おはします。	五経		竹斎
	石の火の 光源氏の物語 その品多き 事なれど	源氏物語		竹斎
	なかなか恋に死なずは桑子にもと詠みける伊勢物語も理也。	伊勢物語		竹斎
	浄土の三部経を書きたる帷子を上に着て、読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	浄土三部経		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	医方大成論		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	脈経		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	素問入式運氣論奥		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	本草序例		竹斎

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	難経		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	万病回春		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	医学正伝		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	医学正伝或問		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	黄帝内经素問		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	靈枢		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	本草綱目		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	医林集要		竹斎
	読み置く医書は何々ぞ。先づ一番に大成論に脈経、能毒、運氣論、序例、難経、回春、医学正伝、或問に素問、靈枢、諸本草、医林集要、源流まで、	医学源流		竹斎
	懐より宇治頼政の謡の本を取出して、	宇治頼政		竹斎
	渋紙包みの中より、西行桜の謡の本を取出し、	西行桜		竹斎
	道細くして、いと暗ふありけるに、蔦楓茂り合ふて、心すさまじき所に、修行者遭ひたると、業平集に見えけり。	業平集		竹斎
	蔦の細道を睨の介と竹斎は、彼方此方へぶらしりやらしりぶらしりやらしりと、分け迷ひたる有様は、誠にかの物語の心地なるべしとて、	伊勢物語		竹斎
	白楽が詩を吟じて、	白楽天の詩		竹斎
	これなんかの物語に伝へたる都鳥なるべしと思ひて、	伊勢物語		竹斎
	女子はいつ学文も有らなくに論語読まざる論語読みかな	論語		仁勢物語
	山姥の終りして後の狂言は腹筋切れて笑ふなるべし	山姥		仁勢物語
	むつかしと平家も知らず三味線も琵琶も小歌もいかで過てき	平家物語		仁勢物語
	それ法華経は最第一、三世の諸仏出世の本懐、一切衆生成仏の直道なり。	法華経		夫婦宗論物語

和暦	記事	項目	備考	出典
	始四十余年に説給し、華嚴、阿含、方等、般若、何れも衆生成仏とこそ説給ひしに、	華嚴經		夫婦宗論物語
	始四十余年に説給し、華嚴、阿含、方等、般若、何れも衆生成仏とこそ説給ひしに、	阿含經		夫婦宗論物語
	始四十余年に説給し、華嚴、阿含、方等、般若、何れも衆生成仏とこそ説給ひしに、	方等經		夫婦宗論物語
	始四十余年に説給し、華嚴、阿含、方等、般若、何れも衆生成仏とこそ説給ひしに、	般若經		夫婦宗論物語
	およそ法華經には、五逆の違多も天王如來の記別に預り、八才の龍女も南方無垢世界に成道す。	法華經		夫婦宗論物語
	それ法華經の柱に云く、	法華經		夫婦宗論物語
	金剛經の文に云く、	金剛經		夫婦宗論物語
	軍法に替たらば、呉子・孫子を欺き、	呉子		浮世物語
	軍法に替たらば、呉子・孫子を欺き、	孫子		浮世物語
	唐にては張重華が博物志といへる書に、百年の狐化して淫婦となると記せり。	博物志		浮世物語
	白樂天が古塚狐の詩にも、古塚の狐妖にして人を迷はすと書きたりけるも、皆淫婦の事なり。	古塚狐（白樂天の詩）		浮世物語
	華嚴經には五十五人の知識の中に婆須蜜多女と申せしは、淫女にておはせしと説かれしを	華嚴經		浮世物語
	千載集に能蓮法師が歌に、石清水清き流れの絶せねば宿る月さへ隈無かりけると詠みけん。	千載和歌集		浮世物語
	官倉豈無粟、粒々蔵珠璣、一粒不出倉、々中郡鼠肥といへる鄭毅夫が詩を唱へたり。	詩（鄭毅夫の詩）		浮世物語
	又張籍が詩には、苗疎税多不得食、輸入官倉化為土と作れり。	詩（張籍の詩）		浮世物語
	津守国量が歌に、橋の小戸の汐瀬に現れて昔降りにし神ぞこの神と詠じけん、	和歌（津守国量）		浮世物語
	俊成卿この社に詣で、和歌の浦の道をば捨てぬ神なれば哀れをかけよ住吉の神	和歌（俊成卿）		浮世物語
	唐土の司馬温公といふ人、六梅の銘といふ事を書れたり。	六梅の銘（司馬温公）		浮世物語
	井上小左衛門尉某が梅草を作りて、古今万悔しき事共を書き連ねたるぞ哀れなる。	梅草		浮世物語
	藤原の清輔朝臣の歌に、長らへば又この頃や忍ばれん憂しと見し世ぞ今は恋しきといふ事を思ひ出るに、	和歌（藤原清輔）		浮世物語
	唐土の杜預に左伝の癖あり、樂天に詩の癖ありと言へり。	春秋左氏伝		浮世物語
	慈鎮和尚の歌に、人により一つの癖はあるものを我には許せ敷島の道	和歌（慈鎮和尚）		浮世物語
	人知らず、而るを怒らずと論語書たり。	論語		浮世物語
	あら難しの論語風や。あら嫌の延喜式や。	論語		浮世物語
	あら難しの論語風や。あら嫌の延喜式や。	延喜式		浮世物語
	されば荀子が曰く、士に妬む友ある時は賢なる友親しまず。君に妬む臣ある時は、賢人至らずと言へり。	荀子		浮世物語
	論語に朝に道を聞て夕に死すとも可なりと言へるは、此事なるべしと言ふ。	論語		浮世物語
	さればこそ中庸に、道は須臾も離るべからず。離るべき道に非ずと侍べり。	中庸		浮世物語

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
	論語に、人知らず、叱るを怒らずと言へり。	論語		浮世物語
	昔年越前の宰相殿に御能の有し時、渋谷が大夫にて張良を致しける。	張良		浮世物語
	源の俊頼朝臣の歌に、憂かりける人を初瀬の山風烈しかれとは祈らぬものと侍べる時は、	和歌（源俊頼）		浮世物語
	十二遊経に説かれたるは、	仏教十二遊経		浮世物語
	孟東野が詩に、古しへの人は形獸に似て皆聖徳あり。今の人とは表は人に似て獸の心なり。安くぞ測べきと言へり。	詩（孟東野）		浮世物語
	医学正伝は誰の作ぞと問ふ。	医学正伝		浮世物語
	今は昔、易に曰く、	易経		浮世物語
	これ狂せるも克念へば聖と作ると書経にも記せり。	書経		浮世物語
	その教ゆる所広く言ふ時は四書六経、	四書六経		浮世物語
	因果経にその現在の果を見て過去の因を知ると説かれた。	過去現在因果経		浮世物語
	罪を天に獲れば禱るに所無しと論語にも記せり。	論語		浮世物語
	物語の序に顔氏が家訓の語を引て曰く、	顔氏家訓		浮世物語
	されば太上感應篇に曰く、	太上感應篇		浮世物語
	孟子の曰く、人の不善を言はず、正に後の患を如何すべきと言へり。	孟子		浮世物語
	景行録に曰く、言を少うして交りを扱ふ時は以て悔み吝しむ事無かるべく、以て憂へと辱とを免るべしと侍べり。	景行録		浮世物語
	楞嚴には十種の仙人を説かれ、	楞嚴経		浮世物語
	これや和歌の褒貶に小町が歌を難じて、あはれなるやうにて強からず。強からぬはおうなの歌なればなりと古今の序に、貫之が書おきしも、品こそ変れ、心は等しかるべしや。	古今和歌集		大坂物語
	かの清少納言がまくらざうしをまねびて書たる物あり。	枕草子		尤之双紙
	源氏若葉の上下。	源氏物語		尤之双紙
	真読の般若六百巻。	大般若波羅蜜多経		尤之双紙
	猩々の謡。	猩々		尤之双紙
	笛太鼓のおもしろきは猩々の乱。	猩々		尤之双紙
	定家の囃。	定家		尤之双紙
	熊野、松風の謡を下手の囃すは惜し。	熊野		尤之双紙
	熊野、松風の謡を下手の囃すは惜し。	松風		尤之双紙
	松風の巻に、源氏大井の里へおもむき給ひし時、	源氏物語		尤之双紙
	平家に合て、琵琶を引。	平家物語		尤之双紙
	氣比宮の縁起に見えたり。	氣比宮の縁起		尤之双紙
	又宇治川の先陣にも、佐々木偽りし事、平家物語に見えたり。	平家物語		尤之双紙
	仁王の狂言。	仁王		尤之双紙
	夕霧の巻に書きたる無言太子の事、	源氏物語		尤之双紙
	又、毛利千句に、	毛利千句		尤之双紙
	と小町がよみて、宵に琴に合て高々と誦じけるを、大伴の黒主が立聞て、此歌を万葉集の中へ書き加へて、	万葉集		尤之双紙

和暦	記事	項目	備考	出典
	又、紀州道成寺の撞き鐘をば下して、山伏を隠しけるも、終にあらはれぬめり。いま猿楽の能にして、あれ見よ、蛇躰現はれたりと歌ふ也。	道成寺		尤之双紙
	此句は浮舟の巻に、	源氏物語		尤之双紙
	拾遺集雑下に、能宣に車のかもを乞ひにつかはして侍りけるに、侍らずといひて侍りければ、藤原中文 鹿を指して馬といふ人ありければかもをもをしと思ふなるべし	拾遺和歌集		尤之双紙
	文章のよきを好む人は、三史文選などを見るべし。	史記		清水物語
	文章のよきを好む人は、三史文選などを見るべし。	漢書		清水物語
	文章のよきを好む人は、三史文選などを見るべし。	後漢書		清水物語
	文章のよきを好む人は、三史文選などを見るべし。	文選		清水物語
	道を知らんと願はゞ、四書五經を学ぶべし。	四書五經		清水物語
	和歌の言葉つゞきを翫ばむ人は、源氏物語の類を読むべし。	源氏物語		清水物語
	観音經の説を承り及び候に、	法華經		清水物語
	此次に学文師匠の上中下を分けたり。上とは、四書にても五經にても、いづれなりとも底を尽して理を知り、身の行ひに疵なく、今の世に用ひてよからん人を上とす。	四書五經		清水物語
	学文の次第は大学といふ本に候へども、それも道だに心得られ候へば、必ず読まずとも苦じからず。大学と申も、始めは口にて教へ給ひたるなり。	大学		清水物語
	殊に老子、莊子、諸子百家の沙汰迄も取り交へて評論し、物知りと罵るは、皆小間物店にてこそ候へ。	老子		清水物語
	殊に老子、莊子、諸子百家の沙汰迄も取り交へて評論し、物知りと罵るは、皆小間物店にてこそ候へ。	莊子		清水物語
	まづ唐土にても悪き事の第一にして、孟子といふ本にもこれを謗り、孔子、孟子なども嫌はれたる事なり。	孟子		清水物語
	扱又物の本の中に押し出して、天道の書といへるは周易の事なり。	易經		清水物語
	女ながら尊き法華經の心まで得たりし昔語りを、	法華經		是楽物語
	彼の素性法師が、手向には綴りの袖も切るべきを紅葉に飽ける神や返さん、と詠ぜしを、	和歌(素性法師)		是楽物語
	其後案の如く、虎関といへる大知識出給ひて、元亨の比叡書を著はし、其外数万言を世に残し給ひけるとかや。	元亨釈書		是楽物語
	(唐の玄宗皇帝)老子經に筆を加へなどし給ひて、	老子		是楽物語
	伝へ聞八歳の童女も、此妙典の功德により、南方無垢世界に生れ侍しとかや、	法華經		是楽物語
	去ながら承り及ぶ論語とやらんに、厩焚、子退朝曰、傷人乎、不問馬と有げに候。	論語		身の鏡
	人莫知其子之悪、莫知其苗之碩と大学にみえたり。	大学		身の鏡

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
	又孟子に、	孟子		身の鏡
延宝三年一月	万葉集 橘諸兄、或云大伴家持	万葉集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	類聚和名抄 源順	類聚和名抄	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	詞林采葉 遊行上人	詞林采葉	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	東鑑	東鑑	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	太平記 玄恵	太平記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	徒然草 兼好	徒然草	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	野槿 林道春	野槿	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	長明海道記	海道記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	発心集 賀茂長明	発心集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	沙石集 無住	沙石集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	壺囊鈔 行營	壺囊鈔	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	続古今集	続古今和歌集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	新拾遺集	新拾遺和歌集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	夫木集 藤原長清	夫木集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	類聚名所倭歌 或云昌琢	類聚名所和歌	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鶴岡記	鶴岡記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉五山記	鎌倉五山記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉物語 中河喜雲	鎌倉物語	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉順礼 僧沢庵	鎌倉順礼	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉記 松村伯印	鎌倉記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉覚書 四通	鎌倉覚書	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	大友興廃記	大友興廃記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	関東兵乱記	関東兵乱記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	寺社領員数記	寺社領員数記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	王代一覽 弘文院学士	王代一覽	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	日本事跡考 同上 (弘文院学士)	日本事跡考	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	節用集 宗二	節用集	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	神社考 林道春	神社考	「引用書目録」による。	鎌倉日記

和暦	記事	項目	備考	出典
延宝三年一月	道春丙辰紀行	丙辰紀行	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	闇齋遠遊紀行	遠遊紀行	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	鎌倉集書 手塚太郎右衛門	鎌倉集書	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	東海道名所記 浅井松雲	東海道名所記	「引用書目録」による。「右三十二品」	鎌倉日記
延宝三年一月	春齋癸未紀行	癸未紀行	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	闇齋再遊紀行	再遊紀行	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	東海道名所記	東海道名所記	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	道中馬次	道中馬次	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	江戸鑑	江戸鑑	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	六郷八幡縁起	六郷八幡縁起	「引用書目録」による。	鎌倉日記
延宝三年一月	闇書	闇書	「引用書目録」による。「右七品」	鎌倉日記
貞享二年八月	万葉集	万葉集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	続古今集	続古今和歌集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	新後撰集	新後撰和歌集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	新拾遺集	新拾遺和歌集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	大納言公任集	公任集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	更級記 菅原孝標女	更級日記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	西行物語	西行物語	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	海道記；世曰鴨長明海道記者非也歌枕名寄以海道記所載和歌為鴨長明今按歌者長明作而詞者後人所贊也乎	海道記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東関紀行 源親行	東関紀行	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	後堀河院百首	後堀河院百首	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	十六夜日記	十六夜日記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	藤原為相海道宿次百首	藤原為相海道宿次百首	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	兼好家集	兼好家集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	詞林采葉抄	詞林采葉抄	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	夫木集	夫木集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	北国紀行 堯慧法印	北国紀行	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東国紀行	東国紀行	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志

引用書目一覽稿

和暦	記事	項目	備考	出典
貞享二年八月	類字名所和歌集 里村昌琢	類字名所和歌集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	楚忽百首 宗牧	楚忽百首	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	藻塩草	藻塩草	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	武蔵野紀行 北條氏康	武蔵野紀行	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	歌枕名寄	歌枕名寄	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	愚管抄 慈鎮和尚	愚管抄	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	保元物語	保元物語	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	異本保元物語 鎌倉本 京本	保元物語 異本	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	源平盛衰記	源平盛衰記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	平家物語	平家物語	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	異本平家物語 八坂本 鎌倉本 長門本	平家物語 異本	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	曾我物語	曾我物語	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東鑑	東鑑	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東鑑脱漏	東鑑脱漏	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	古本東鑑纂 島津家蔵本	古本東鑑纂	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	帝王編年記	帝王編年記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	奥羽軍記	奥羽軍記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	太平記	太平記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	異本太平記 今出川本 毛利家本 天正本 金勝院本 西源院本 島津家本	太平記 異本	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	保暦間記	保暦間記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	若狭国守護職次第	若狭国守護職次第	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	園太暦	園太暦	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	梅松論	梅松論	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	神明鏡	神明鏡	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉大草子	鎌倉大草子	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉九代記	鎌倉九代記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	上杉禪秀記	上杉禪秀記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉年中行事 季高 源成氏家臣	鎌倉年中行事	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	関東兵乱記	関東兵乱記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志

和暦	記事	項目	備考	出典
貞享二年八月	北條五代記	北條五代記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	大友興廃記	大友興廃記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	八幡愚童訓	八幡愚童訓	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡八幡宮記	鶴岡八幡宮記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡八幡回御影縁起	鶴岡八幡回御影縁起	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡日記	鶴岡日記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡記録	鶴岡記録	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡八幡宮寺社努職次第	鶴岡八幡宮寺社努職次第	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡供僧帳	鶴岡供僧帳	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡神主家伝文書	鶴岡神主家伝文書	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡八幡宮寛文年中修復記	鶴岡八幡宮寛文年中修復記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鶴岡頼印僧正行状	鶴岡頼印僧正行状	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	普川国師新宮講式	普川国師新宮講式	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	押手聖天縁起	押手聖天縁起	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	関東五山記	関東五山記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	関東五山住持籍	関東五山住持籍	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	建長寺過去帳	建長寺過去帳	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	泉涌寺末寺帳	泉涌寺末寺帳	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	資受院校割帳案文 夢窓国師	資受院校割帳案文	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東宝記 泉宝	東宝記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	頼焼阿弥陀縁起 光触寺蔵本	頼焼阿弥陀縁起	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	記主上人伝 道光	記主上人伝	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	常楽寺略伝記	常楽寺略伝記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	江島縁起 巖本院蔵本	江島縁起	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東海道名所記 浅井松雲	東海道名所記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉名所記	鎌倉名所記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉記 相承院蔵本	鎌倉記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉日記	鎌倉日記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
貞享二年八月	鎌倉并金沢三崎間割地理之図	鎌倉并金沢三崎間割地理之図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉物語 中河喜雲	鎌倉物語	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	鎌倉順礼記 沢庵宗彭	鎌倉順礼記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	和名類聚抄	倭名類聚抄	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	古事談	古事談	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	発心集	発心集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	沙石集	沙石集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	徒然草	徒然草	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	野槌	野槌	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	壺囊鈔	壺囊鈔	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	下学集	下学集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	元亨釈書	元亨釈書	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	注画賛	注画賛	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	扶桑禅林諸祖伝	扶桑禅林諸祖伝	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東渡諸祖伝	東渡諸祖伝	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	大休正念録	大休正念録	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	竺仙録	竺仙録	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	空華集	空華集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	落絮集	落絮集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	日工集	日工集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	日件録 瑞溪周鳳	日件録	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	善隣国宝記	善隣国宝記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	東遊路行記 万里居士	東遊路行記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	梅花無尽蔵 万里居士	梅花無尽蔵	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	滑稽詩文	滑稽詩文	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	諸国鐘銘集	諸国鐘銘集	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	神社考	神社考	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	佐竹系図 常州太古山清音寺蔵本	佐竹系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志

和暦	記事	項目	備考	出典
貞享二年八月	足利系図	足利系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	北條系図	北條系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	古本北條系図 常州増井正宗寺蔵本	北條系図 古本	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	上杉系図	上杉系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	首藤系図	首藤系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	田代系図	田代系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	小栗系図	小栗系図	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	花押藪	花押藪	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	千手経流蒙記 慧林	千手経流蒙記	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	通鑑綱目	通鑑綱目	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	皇明護法録	皇明護法録	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	古今医統	古今医統	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	本草綱目	本草綱目	「新編鎌倉志引用書目」による。	新編鎌倉志
貞享二年八月	二程全書	二程全書	「新編鎌倉志引用書目」による。「通計壹百十九部」	新編鎌倉志
平成3年9月20日	朝倉始末記	朝倉始末記	写本八巻四冊(内閣文庫蔵)朱点入り校正本。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	阿毘達磨大毘婆沙論	阿毘達磨大毘婆沙論	大正新修大蔵経巻一五四五	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	阿倍晴明物語	阿倍晴明物語	寛文二年西村又左衛門板、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	阿弥陀経鼓吹	阿弥陀経鼓吹	寛文十三年西村九郎右衛門板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	安斎随筆	安斎随筆	新訂増補故実叢書八・九。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	伊京集	伊京集	中田祝夫氏『古本節用集六種研究並びに総合索引』(昭和五十四、勉誠社)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	伊勢物語集註	伊勢物語集註	承応二年小島弥左衛門板、切臨抄。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	狗張子	狗張子	元禄五年林九兵衛・伏見屋藤右衛門板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	異本糺河原勸進申楽記	異本糺河原勸進申楽記	群書類従巻三六三	脚注参考文献一覽

引用書目一覽稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	いろは字	いろは字	鈴木博氏『(妙本寺/永禄二年)いろは字 影印・解説・索引』(昭和四十九、清文堂)	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	色葉字類抄	色葉字類抄	中田祝夫ほか『色葉字類抄研究並びに索引本文索引編』(昭和三十九、風間書房)	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	浮世物語	浮世物語	寛文ころ無刊記板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	謡抄	謡抄	寛永ころ無刊記中本、伊藤正義氏「謡抄考」(『文学』一九七七・十一一七八・一)にいわゆる整版中本。ただし「邯鄲」「皇帝」「船弁慶」は古活字版(謡注甲集)に依った。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	歌枕名寄	歌枕名寄	万治二年抜板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	恨の介	恨の介	寛文四年山本九左衛門板、外題「浦見の助物語」。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	雲笈七籤	雲笈七籤	明刊、蔣力生等校注『雲笈七籤』(一九九六、北京華夏出版)、宋張君房撰・明張萱校、一二二卷三十六冊	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	雲歩色葉集	雲歩色葉集	中田祝夫ほか『中世古辞書四種研究並びに僧綱索引影印篇』(昭和四十六、風間書房)	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	永享記	永享記	続群書類従卷五七五	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	絵入往生要集	絵入往生要集	寛文十一年板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	絵入俵藤太物語	絵入俵藤太物語	→俵藤太物語	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	永禄二年本節用集	永禄二年本節用集	中田祝夫氏『印度本節用集古本四種研究並びに総合索引』(昭和四十九、勉誠社)	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	易林本	易林本	中田祝夫氏『古本節用集六種研究並びに総合索引』(昭和五十四、勉誠社)	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	エソポのハプラス・コトバノヤワラゲ	エソポのハプラス・コトバノヤワラゲ	京都大学文学部国語国文学研究室編『(文禄二年/耶穌会板)伊曾保物語』	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	越佐史料	越佐史料	高橋義彦氏『越佐史料』(昭和四十六、名著出版)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	江戸名所記	江戸名所記	寛文二年河野道清板。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	往生拾因直談	往生拾因直談	天和二年序大角清兵衛板、浅井了意作。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	応仁記	応仁記	寛永十年板、上下二冊に仕立てるが、内容を分けないので巻の表示を略した。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	近江国輿地志	近江国輿地志	小島捨市氏『(校訂/頭註)近江国輿地志略』(昭和四十三、歴史図書社)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	鸚鵡抄	鸚鵡抄	『静嘉堂文庫蔵鸚鵡抄』(昭和五十五、雄松堂書店)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	大内義隆記	大内義隆記	続群書類従・補遺一一一	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	大友記	大友記	続群書類従巻三九七	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	嗚呼矣草	嗚呼矣草	日本随筆大成第一期十九	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	織田信長譜	織田信長譜	明暦四年荒川四郎左衛門板、「將軍家譜」七巻七冊のうち。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	御伽物語	御伽物語	延宝五年西村九郎右衛門板、野間光辰氏『お伽物語』(昭和二十七、古典文庫)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	お湯殿の上の日記	お湯殿の上の日記	続群書類従・補遺三	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	温故知新書	温故知新書	『温故知新書』(昭和三十七、白帝社)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	女重宝記	女重宝記	元禄五年万屋清兵衛ほか板、近世文学資料類従・参考文献編十八(昭和五十六、勉誠社)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	快言抄	快言抄	『駒沢大学国語研究資料第四快言抄』(昭和五十六、汲古書院)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	甲斐国志	甲斐国志	甲斐叢書一一二(昭和四十九、第一書房)	脚注参考文献一覧

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	戒殺物語	戒殺物語	寛文四年板、国立国会図書館蔵本は『戒殺物語』二巻一冊本。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	甲斐戦国史料叢書本王代記	甲斐戦国史料叢書本王代記	服部治則氏『甲斐戦国史料叢書』（昭和五十一、文林堂書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	海内十洲記	海内十洲記	『五朝小説大観』（民国五十八、新興書局）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	下学集	下学集	寛文九年飯田忠兵衛ほか板、近世文学史研究の会『増補下学集』（昭和四十三、文化書房博文社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	かくれさと	かくれさと	室町時代物語集五（昭和三十七、井上書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	可笑記	可笑記	寛永十九年板、田中伸ほか『可笑記大成』（昭和四十九、笠間書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	可笑記評判	可笑記評判	万治三年板、近世文学資料類従・仮名草子編二十一—二十三（昭和五十二、勉誠社）、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	葛城物語	葛城物語	万治ころ無刊記板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	枯杭集	枯杭集	寛文八年西村三郎兵衛板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	仮名文字遣	仮名文字遣	慶長年間無刊記板、『駒沢大学国語研究資料第二仮名文字遣』（昭和五十五、汲古書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	鎌倉九代記	鎌倉九代記	寛文十二年柏原屋清右衛門板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	鎌倉攪勝考	鎌倉攪勝考	蘆田伊人氏『新編相模国風土記稿』六（昭和四十五、雄山閣）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	歌林良材集	歌林良材集	万治四年秋田屋平左衛門板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	顔氏家訓	顔氏家訓	寛文二年村田庄五郎板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	漢書抄	漢書抄	続抄物資料集成四（昭和五十五、清文堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	寛政重修諸家譜	寛政重修諸家譜	『新訂寛政重修諸家譜』（昭和三十九、続群書類従完成会）	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	堪忍記	堪忍記	万治二年荒木利兵衛板、近世文学資料類従・仮名草子編一・二（昭和四十七、勉誠社）、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	関八州古戦録	関八州古戦録	享保十一年序写本（国立国会図書館蔵）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	管蠡抄	管蠡抄	元和頃古活字本板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	奇異雑談集	奇異雑談集	貞享四年茨木多左衛門ほか板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	木曾路巡覧記	木曾路巡覧記	宝暦五年小川多左衛門ほか板、道中記集成十（平成八、大空社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	義楚六帖	義楚六帖	寛文九年飯田氏忠兵衛板、『義楚六帖附索引』	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	嬉遊笑覧	嬉遊笑覧	日本随筆大成別巻（昭和二、成光堂出版部）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	京雀	京雀	寛文五年山田市郎兵衛板、新修京都叢書一（平成五、臨川書店）、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	京都將軍家譜	京都將軍家譜	明暦四年荒川四郎左衛門板、「將軍家譜」七卷七冊のうち。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	京都坊目誌	臨川書店	新修京都叢書十七一廿一（平成七、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	京羽二重	京羽二重	貞享二年小嶋徳右衛門板、新修京都叢書二（平成五、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	吉利支丹御対治物語	吉利支丹御対治物語	寛永十六年板、目錄題「吉利支丹物語」。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	キリシタン版落葉集	キリシタン版落葉集	→落葉集	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	金鰲新話	金鰲新話	承応二年崑山館道可板、『金鰲新話』（一九七三、亜細亜文化社）に寛文十三年福森兵左衛門板の影印を載せる。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	公卿補任	公卿補任	新訂増補国史大系一一四（昭和五十四、吉川弘文館）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	愚抄	愚抄	→題林愚抄	脚注参考文献一覽

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	九条本文選	九条本文選	中村宗彦氏『九条本文選古訓集』（昭和五十八、風間書房）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	黒田家譜	黒田家譜	『黒田家譜』（昭和五十五、歴史図書社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	黒本本	黒本本	中田祝夫氏『古本節用集六種研究並びに総合索引』（昭和五十四、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	慶長九年本節用集	慶長九年本節用集	中田祝夫氏ほか『（印度本／節用集）和漢通用集他三種研究並びに総合索引』（昭和五十五、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	慶長五年本節用集	慶長五年本節用集	小林健二氏『慶長五年本節用集・国尽・葉種いろは抄』（一九八九、清文堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	系図纂要	系図纂要	『系図纂要』（昭和五十二、名著刊行会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	慶長十五年倭玉篇	慶長十五年倭玉篇	→倭玉篇	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	毛吹草	毛吹草	加藤定彦『初印本毛吹草』（昭和六十五、ゆまに書房）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	元亨釈書和解	元亨釈書和解	元禄三年津屋勘兵衛板、「和解元亨釈書」とも。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	蜷縮涼鼓集	蜷縮涼鼓集	元禄八年伊勢屋清兵衛板、『駒沢大学国語研究資料第一蜷縮涼鼓集』（昭和五十四、汲古書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	賢女物語	賢女物語	寛文九年秋田屋五郎兵衛板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	建内記	建内記	大日本古記録十四（昭和六十二、岩波書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	源平盛衰記	源平盛衰記	寛永ころ無刊記板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	広本節用集	広本節用集	古辞書大系二	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	高野通念集	高野通念集	寛文十二年板、古板地誌叢書五一七（昭和四十五、すみや書房）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	甲陽軍鑑	甲陽軍鑑	寛永ころ無刊記板、酒井憲二氏『甲陽軍鑑』（昭和五十四、汲古書院）	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	甲陽軍鑑・写本	甲陽軍鑑・写本	酒井憲二氏『甲陽軍鑑大成』（一九九四、汲古書院）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	甲陽軍鑑末書結要本	甲陽軍鑑末書結要本	寛文元年本屋善右衛門板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	合類節用集	合類節用集	延宝八年村上勤兵衛板、中田祝夫氏ほか『合類節用集研究並びに索引』（昭和五十四、勉誠社）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	幸若日本紀	幸若日本紀	笹野堅氏『幸若舞曲集』（昭和十八、第一書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	語園	語園	寛永四年板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	古今事文類聚	古今事文類聚	寛文六年八尾勤兵衛板、『（和ノ刻）古今事文類聚』（昭和五十七、ゆまに書房）当該箇所を集・巻・見出し・「小見出し」によって表示した。前集・後集・続集・別集	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	古事談	古事談	新訂増補国史大系十八（昭和三十九、吉川弘文館）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	古梓堂文庫蔵絵巻・浦島太郎	古梓堂文庫蔵絵巻・浦島太郎	室町時代物語集五（昭和三十七、井上書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	御成敗式目注	御成敗式目注	寛永ころ敦賀屋久兵衛板、植木直一郎氏『御成敗式目研究』にいわゆる「敦賀屋版式目注」とは別種の、版種が多い清家の仮名注。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	古注千字文	古注千字文	寛永ころ無刊記板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	五朝小説	五朝小説	明刊、内閣文庫林羅山旧蔵「宋人百家小説」（江三七一／六）、「唐人百家小説」（江三七一／八）を使った。『五朝小説大観』（民国六十八、広文書局）は同名異書。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	滑稽雑談	滑稽雑談	『滑稽雑談』（昭和五十三、ゆまに書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	骨董集	骨董集	日本随筆大成第一期十五	脚注参考文献一覧

引用書目一覽稿

和曆	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	狐媚抄	狐媚抄	中村幸彦氏『狐媚抄化女集』（昭和三十八、西日本国語国文学会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	古文真宝後集	古文真宝後集	諸儒箋解古文真宝後集	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	古老軍物語	古老軍物語	万治四年荒木利兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	三国伝記	三国伝記	明暦二年村上勤兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	三湖抄	三湖抄	寛文四年村上勤兵衛板、伊地知鉄男氏『連歌資料集』二（昭和五十二、ゆまに書房）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	山州名跡志	山州名跡志	正徳元年出雲寺和泉掾板、新修京都叢書十五・十六（平成六、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	詩学大成抄	詩学大成抄	柳田征司氏『詩学大成抄の国語学的研究』（昭和五十、清文堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	史記	史記	『和刻本正史史記』（昭和四十七、汲古書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	史記抄	史記抄	抄物資料集成一（昭和四十六、清文堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	色道大鏡	色道大鏡	野間光辰氏『色道大鏡』（昭和四十九、八木書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	選言便蒙抄	選言便蒙抄	近世文学資料類從・参考文献編三（昭和五十、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	字集	字集	→字集便覽	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	字集便覽	字集便覽	承応二年大和田九左衛門板、別名『和字集』。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	地藏十王経注解	地藏十王経注解	天和三年亀屋半左衛門ほか板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	志不可起	志不可起	近世文学資料類從・参考文献編七（昭和五十一、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	事文後集	事文後集	→古今事文類聚・後集	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	事文前集	事文前集	→古今事文類聚・前集	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	事文統集	事文統集	→古今事文類聚・統集	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	事文別集	事文別集	→古今事文類聚・別集	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	釈氏要覧	釈氏要覧	寛永十年中野道伴板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	沙石集	沙石集	慶安五年中野是誰板、平仮名本。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	拾遺記	拾遺記	漢魏叢書六十五（民国七十七、大化書局）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	拾芥抄	拾芥抄	明曆四年村上勤兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	袖中抄	袖中抄	慶安四年丸屋庄三郎板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	述異記	述異記	→五朝小説・述異記	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	酒吞童子	酒吞童子	室町時代物語大成三（昭和五十五、角川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	寿命院抄	寿命院抄	吉沢貞人氏『徒然草一つれづれ草寿命院抄一』（昭和五十七、中部日本教育文化会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	授蒙聖功方	授蒙聖功方	正保ころ無刊記板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	將軍記	將軍記	→本朝將軍記	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	匠材集	匠材集	寛永三年杉田勤兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	聖徳太子御憲法玄恵註抄	聖徳太子御憲法玄恵註抄	奥田正造氏『聖徳太子御憲法玄恵註抄』（昭和十五年、森江書店）、底本は法隆寺蔵の古写本。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	聖徳太子伝	聖徳太子伝	寛文六年板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	浄瑠璃御前物語	浄瑠璃御前物語	新日本古典文学大系第九十卷『古浄瑠璃説経集』（平成十一、岩波書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	続日本紀	続日本紀	新日本古典文学大系第十二卷『続日本紀』（平成元、岩波書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	女訓抄	女訓抄	寛永十九年林甚石衛門板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	書言字考節用集	書言字考節用集	享保二年村上勤兵衛板、中田祝夫氏ほか『書言字考節用集研究並びに索引』（昭和四十八、風間書房）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	書言字考節用集・自筆稿本	書言字考節用集・自筆稿本	享保二年村上勤兵衛板、中田祝夫氏ほか『書言字考節用集研究並びに索引』（昭和四十八、風間書房）	脚注参考文献一覽

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	諸儒箋解古文真宝後集	諸儒箋解古文真宝後集	慶安四年豊興堂板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	塵芥	塵芥	京都大学文学部国語国文学研究室編『塵芥』(昭和六十三、臨川書店)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	新語園	新語園	天和二年梶川常政ほか板、吉田幸一氏『新語園』(昭和五十六、古典文庫)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	真宗勸化要義後集	真宗勸化要義後集	元禄十四年川勝五良右衛門板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	新撰仮名文字遣	新撰仮名文字遣	寛文十三年写、『駒沢大学国語研究資料第三新撰仮名文字遣』(昭和五十六、汲古書院)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	新撰庭訓抄	新撰庭訓抄	万治二年松長伊右衛門板、吉井始子氏「新撰庭訓抄について附録・新撰庭訓抄(翻刻)」(『東京家政学院大学紀要』十二)、漢文注と仮名注を折衷した内容。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	新撰類聚往来	新撰類聚往来	慶安元年敦賀屋久兵衛板、往来物大系十二(平成四、大空社)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	信長記	信長記	寛永元年板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	信長公記	信長公記	奥野高広氏ほか『信長公記』(昭和四十四、角川書店)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	塵添壺囊鈔	塵添壺囊鈔	慶安ころ無刊記板、浜田敦氏ほか『塵添壺囊鈔』(昭和四十四、渡辺書店)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	人倫訓蒙図彙	人倫訓蒙図彙	元禄三年村上平楽寺ほか板、田中ちた子氏ほか『人倫訓蒙図彙』(昭和四十四、渡辺書店)	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	[人倫名]	人倫名	承応三年板、題簽欠、書名は柱刻に依る。あるいは「人倫名尽」か。	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	勢州軍記	勢州軍記	写本(内閣文庫蔵)、統群書類従巻五九八(本・末)	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	勢陽軍談	勢陽軍談	明暦元年序写本（内閣文庫蔵）、別名「伊勢国一揆」。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	世話支那草	世話支那草	寛文四年八尾勤兵衛板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	せわ焼草	せわ焼草	明暦二年西田庄兵衛板、米谷巖氏『せわ焼草』（昭和五十一、ゆまに書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	山海経	山海経	明刊	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	剪灯新話	剪灯新話	慶安元年仁左衛門板、ただし『剪灯新話句解』。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	剪灯余話	剪灯余話	元禄五年林九兵衛板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	宗祇諸国物語	宗祇諸国物語	貞享二年西村市郎右衛門ほか板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	莊子抄	莊子抄	続抄物資料集成七（昭和五十六、清文堂）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	曾呂利物語	曾呂利物語	寛文三年板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	孫呉摘語	孫呉摘語	寛永ころ無刊記板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	大全	大全	一節用集・節用集大全	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	大道中名所鑑	大道中名所鑑	延宝七年堺屋庄兵衛板、上巻は延宝六年堺屋・和泉屋普五郎板。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	太平記	太平記	寛永八年板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	太平広記	太平広記	明太平興国六年板、『太平広記』（一九六一、中華書局出版）、中華書局本には句点がつく。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	題林愚抄	題林愚抄	寛永十四年村上平楽寺板、『明題和歌全集（二八明題集）』との比較を割愛した。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	多識編	多識編	中田祝夫氏『多識編自筆稿本刊本三種研究並びに総合索引』（昭和五十二、勉誠社）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	糺河原勸進猿楽日記	糺河原勸進猿楽日記	群書類従三六三	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	玉藻の草紙	玉藻の草紙	室町時代物語大成九（昭和六十、角川書店）	脚注参考文献一覧

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	俵藤太物語	俵藤太物語	新日本古典文学大系第五十五巻『室町物語集』下(平成四、岩波書店)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	千種日記	千種日記	鈴木棠三・小池章太郎氏『千種日記』(昭和五十九、古典文庫)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	智証大師伝	智証大師伝	統群書類従巻二一二	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	長生療養方	長生療養方	統群書類従巻八九八	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	菟芸泥赴	菟芸泥赴	新修京都叢書一(平成六、臨川書店)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	徒然草文段鈔	徒然草文段鈔	寛文七年飯田忠兵衛板、北村季吟古註釈集成十八(昭和五十四、新典社)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	庭訓往来	庭訓往来	『新撰庭訓抄』の本文に依った。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	庭訓往来抄	庭訓往来抄	万治二年板、平がな注。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	庭訓往来註	庭訓往来註	漢文注。漢文注は蓬左文庫蔵『庭訓往来抄』(室町末写)によってだいひょうさせることとし、送りがなを適宜補いながら書き下した。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	庭訓私記	庭訓私記	天正十年写、天理図書館蔵本。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	庭訓抄	庭訓抄	慶安二年杉田勘兵衛板、片かな註。寛永八年板の求版本。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	貞丈雑記	貞丈雑記	改訂増補故実叢書一(平成五、明治図書)	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	出来齋京土産	出来齋京土産	延宝五年磯田平兵衛板、近世文学資料類従・古板地誌編六(昭和五十一、勉誠社)、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	鉄囲山叢談	鉄囲山叢談	→五朝小説・鉄囲山叢談	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	天正本	天正本	東洋文庫叢刊十七(昭和四十六、東洋文庫)、いわゆる天正十八年本節用集。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	天正十八年本	天正十八年本	→節用集・天正本	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	天中記	天中記	万暦二十三年序板	脚注参考文献一覧

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	東海道名所記	東海道名所記	万治ころ無刊記板、近世文学資料類従・古板地誌編六（昭和五十一、勉誠社）、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	童観鈔	童観鈔	万治二年武村市兵衛板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	同文通考	同文通考	勉誠社文庫七十『同文通考』（昭和五十四、勉誠社）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	杜詩統翠抄	杜詩統翠抄	続抄物資料集成三（昭和五十六、清文堂）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	俊頼髓脳	俊頼髓脳	日本歌学大系一（昭和四十四、風間書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	杜陽・武宗	杜陽・武宗	→五朝小説・杜陽雜編、五朝小説所収「杜陽雜編」の「武宗皇帝会昌云々」を見よ。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	難波土産	難波土産	新群書類従六（明治四十、国書刊行会）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	二言抄	二言抄	日本歌学大系五（昭和三十二、風間書房）、別名「今川了俊和歌所へ不審条々」。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日葡	日葡	→日葡辞書	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日葡辞書	日葡辞書	土井忠生氏ほか『邦訳日葡辞書』（一九八〇、岩波書店）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日本山海名物図会	日本山海名物図会	宝暦四年板、日本図絵全集第三期二（昭和四、日本随筆大成刊行会）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日本王代一覧	日本王代一覧	寛文三年村上勘兵衛板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日本歳時記	日本歳時記	貞享五年日新堂板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日本書紀兼俱抄	日本書紀兼俱抄	続抄物資料集成九（昭和五十六、清文堂）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	日本書紀桃源抄	日本書紀桃源抄	続抄物資料集成九（昭和五十六、清文堂）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	後鑑	後鑑	新訂増補国史大系三十四—三十七（吉川弘文館）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	野槌	野槌	寛永ころ無刊記板	脚注参考文献一覧

引用書目一覽稿

和曆	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	俳諧御傘	俳諧御傘	万治二年安田十兵衛板、赤羽学氏『校注俳諧御傘』（昭和五十五、福武書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	俳諧初学抄	俳諧初学抄	寛永十八年拔板、近世文学資料類從・古俳諧編五（昭和四十八、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	俳諧類船集	俳諧類船集	延宝四年寺田与平治板、近世文芸叢刊第一卷（昭和四十四、般庵野間光辰先生華甲記念会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	白氏文集	白氏文集	元和四年古活字板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	万金産業袋	万金産業袋	享保十七年序菱屋治兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	日次紀事	日次紀事	貞享二年跋板、新修京都叢書四（平成六、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	百物語	百物語	万治二年松長伊右衛門板、近世文学資料類從・仮名草子編二十四（昭和五十二、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	病名彙解	病名彙解	貞享三年梅村弥右衛門・藤右衛門板、『病論病名集』（一九七二、文史哲出版社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	病論俗解集	病論俗解集	寛永十六年村上平楽寺板、『病論病名集』（一九七二、文史哲出版社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	武具訓蒙図彙	武具訓蒙図彙	天和四年永田長兵衛他板、近世文学資料類從・参考文献編一（昭和五十、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	武家名目抄	武家名目抄	改訂増補故実叢書十一—十八（平成五、明治図書）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	覆番集	覆番集	寛文十一年板、『詩集日本漢詩』（昭和六十二、汲古書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	仏法伝来次第	仏法伝来次第	続群書類從卷七一—六	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	ふ老ふ死	ふ老ふ死	室町時代物語集五（昭和三十七、井上書房）	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	文苑英華	文苑英華	『文苑英華』（民国六十八、新文豊出版公司）、宋李・等奉勅撰、一千卷。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	文明本	文明本	中田祝夫氏『文明本節用集研究並びに索引』（昭和五十四、風間書房）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	平家物語	平家物語	覚一本系、新日本古典文学大系第四十四・四十五巻『平家物語』上・下（平成三・五、岩波書店）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	反故集	反故集	寛文十一年板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	保元物語	保元物語	明暦三年安田十兵衛板、「平治物語」とも六冊。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	蓬左文庫本御成敗式目抄	蓬左文庫本御成敗式目抄	近世初期写、天文三年清原宣賢抄出本の転写本。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	北条九代記	北条九代記	延宝三年梅村弥右衛門板、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	北条五代記	北条五代記	万治二年風月庄左衛門板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	抱朴子	抱朴子	万曆十二年序板、本田濟氏訳注『抱朴子』一・二（平成二、東洋文庫）。石島快隆氏訳注『抱朴子』（平成九、岩波文庫）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	蓬萊山由来	蓬萊山由来	室町時代物語集五（昭和三十七、井上書店）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	蓬萊物語	蓬萊物語	室町時代物語大成一二（昭和六十一、角川書店）	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	法林樵談	法林樵談	元禄四年山岡四郎兵衛板、浅井了意作。	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	篋篋	篋篋	慶安三年前川茂右衛門板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	篋篋抄	篋篋抄	寛文四年吉田庄右衛門板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	篋篋秘決伝	篋篋秘決伝	享保三年跋板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	法華経直談鈔	法華経直談鈔	万治二年風月庄左衛門板	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	細川両家記	細川両家記	群書類従巻三八〇	脚注参考文献一覧
平成3年9月20日	補注蒙求	補注蒙求	寛永ころ無刊記板	脚注参考文献一覧

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	本草綱目	本草綱目	承応ころ無刊記板、承応二年野田弥次兵衛板の求版本。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本草綱目啓蒙	本草綱目啓蒙	享和三一文化三刊、杉本つとむ氏編『本草綱目啓蒙』（昭和六十一、早稲田大学出版部）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本草和名	本草和名	寛政八年板、日本古典全集『本草和名』（大正十五、日本古典全集刊行会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝高僧伝	本朝高僧伝	大日本仏教全書六十三（昭和四十七、講談社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝故事因縁集	本朝故事因縁集	元禄二年万屋清兵衛・雁金屋庄兵衛板。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝將軍記	本朝將軍記	寛文四年跋板、浅井了意作。当該紀事を巻・將軍名・年月日により示した。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝女鑑	本朝女鑑	寛文元年西村又左衛門板、近世文学資料類従・仮名草子編六・七（昭和四十七、勉誠社）、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝食鑑	本朝食鑑	元禄八年跋板、食物本草大成九・十（昭和五十五、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝神社考	本朝神社考	寛永ころ無刊記板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝二十不孝	本朝二十不孝	近世文学資料類従・西鶴編六（昭和五十、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	本朝武家根元	本朝武家根元	明暦三年本屋道清板、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	饅頭屋本	饅頭屋本	中田祝夫氏『古本節用集六種研究並びに総合索引』（昭和五十四、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	密厳上人行状記	密厳上人行状記	寛文十二年前川茂右衛門板、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	名語記	名語記	田山方南氏校閲・北野克氏写『名語記』（昭和五十八、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	無門関	無門関	『無門関万安抄』の本文に依った。	脚注参考文献一覽

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	無門関万安抄	無門関万安抄	寛永十四年板、外題、内題とも「無門関抄」。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	無量寿経鼓吹	無量寿経鼓吹	寛文十年、海老屋弥三郎板、浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	明心宝鑑	明心宝鑑	寛永八年道伴板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	毛詩抄	毛詩抄	抄物資料集成六（昭和四十六、清文堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	藻塩草	藻塩草	寛永ころ無刊記板、大阪俳文学研究会『藻塩草』（昭和五十四、和泉書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	尤之双紙	尤之双紙	慶安二年藤井吉兵衛尉板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	薬師通夜物語	薬師通夜物語	徳川文芸類聚一（大正十四、国書刊行会）、別名「福斎物語」。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	薬性本草約言	薬性本草約言	万治三年田原二左衛門板、食物本草大成三（昭和五十五、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	康富記	康富記	増補史料大成三十九・四十（昭和四十、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	大和記	大和記	続群書類従巻五九六	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	大和名所記	大和名所記	延宝九年跋、『大和名所記—和州旧跡幽考—』（平成二、臨川書店）、目録・内題「和州旧跡幽考」。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	遊仙窟	遊仙窟	慶安五年中野太良左衛門板	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	やうきひ物語	やうきひ物語	万治ころ無刊記板、倉島節尚氏『やうきひ物語』（昭和六十一、古典文庫）、伝浅井了意作。	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	雍州府志	雍州府志	貞享三年茂兵衛・加兵衛板、新修京都叢書十（平成六、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	喚子鳥	喚子鳥	『雑芸叢書』（大正三、国書刊行会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	落葉集	落葉集	福島邦道氏『キリシタン版落葉集』（昭和五十二、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月 20日	羅葡日対訳辞書	羅葡日対訳辞書	キリシタン資料集成七	脚注参考文献一覽

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月20日	料理切形秘伝抄	料理切形秘伝抄	寛永十五年高橋五左衛門尉板、江戸時代料理本集成・資料篇（昭和五十二、臨川書店）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	類字名所和歌集抜書	類字名所和歌集抜書	寛永八年杉田良庵玄与板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	蠡測集	蠡測集	統群書類従巻九五七	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	靈宝薬性能毒	靈宝薬性能毒	寛文九年西村九郎右衛門板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	列仙全伝	列仙全伝	慶安三年藤田庄右衛門板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	鹿苑日録	鹿苑日録	『鹿苑日録』（昭和三十六、統群書類従完成会）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	口氏大文典	口氏大文典	土井忠生氏『ロドリゲス日本大文典』（昭和三十、三省堂）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	論語抄	論語抄	坂詰力治氏編『論語抄の国語学的研究研究・索引編』（昭和六十二、武蔵野書院）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和漢三才図会	和漢三才図会	正徳三年序板、『和漢三才図会』上・下（昭和四十五、東京美術）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和漢通用集	和漢通用集	中田祝夫氏ほか『（印度本／節用集）和漢通用他三種研究並びに総合索引』（昭和五十五、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和漢朗詠集	和漢朗詠集	寛文二年村上勘兵衛板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和漢朗詠集鈔	和漢朗詠集鈔	正保ころ無刊記板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和解元亨釈書	和解元亨釈書	→元亨釈書	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	倭玉篇	倭玉篇	中田祝夫氏ほか『倭玉篇慶長十五年版研究並びに索引』（昭和五十六、勉誠社）	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和語本草綱目	和語本草綱目	元禄十一年小佐治半右衛門板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和名集并異名製剤記	和名集并異名製剤記	明暦三年板	脚注参考文献一覽
平成3年9月20日	和漢通用集・慶長九年本	和漢通用集・慶長九年本	中田祝夫氏ほか『（印度本／節用集）和漢通用他三種研究並びに総合索引』（昭和五十五、勉誠社）	脚注参考文献一覽

引用書目一覧稿

和暦	記事	項目	備考	出典
平成3年9月 20日	和漢通用集・図書寮本	和漢通用集・ 図書寮本	中田祝夫氏ほか『 (印度本／節用集) 和漢通用他三種 研究並びに総合索 引』(昭和五十五 、勉誠社)	脚注参考文 献一覧